

6. 川端通り（元茨木川緑地）

茨木川は天井川（川底が周辺の地面よりも高い位置にある川）で堤防の土がもろく、昔からたびたび決壊したため、昭和24年には田中町から下流が廃川となり、

元茨木川という名に。それを車線と遊歩道、緑地帯に整備したのが元茨木川緑地です。

元茨木川緑地には、橋や樋（川から水を引いた水門）跡の石碑が多く点在しています。意識して歩けば、道をくぐるトンネルや、土手のようなところがあったり、緑地脇の交差点やバス停に「橋」のつく名前が多かったり、川だった名残りがたくさんあることに気づきます。

茨木川は水の美しさに定評があったため、川端通り沿いの茨木神社には千利休の時代の茶人にまつわる史跡も。豊臣秀吉がこの水をたいそう気に入り、大坂城で茶会を催するときに取り寄せたという逸話が残っています。



茨木童子
茨木市のシンボルキャラクタ



希望の像
少年と少女の像



茨木市 30 周年の礎石
市制 30 周年を記念して

7. 川端康成文学館

『伊豆の踊子』『雪国』などで親しまれる著名な作家で、昭和43年

(1968年)にノーベル文学賞を受賞した川端康成は、幼児期から旧制中学校卒業期まで茨木で暮らし、この時期に文学への志を深めました。茨木市は「川端康成のゆかりのふるさと」として、多くの市民が川端康成やその文学に親しむ拠点となるよう、昭和60年(1985年)5月「川端



康成文学館」を開館しました。併設のギャラリーでは、川端康成の誕生日、明治32年(1899年)6月14日を記念し、毎年6月に川端康成や川端文学のゆかりによる企画展を開催しています。さらに随時、川端に因む企画展を開催するほか、近隣の美術家による展覧会を開催しています。そのほか、市民が文学に親しむ機会として、川端文学や近現代文学に関する講座を実施しています(有料)